

群 教 セ	F08 - 01
	平20.240集

生徒の規範意識を高める学級活動の工夫

——学級活動委員会を中心とした話し合い活動を通して——

長期研修Ⅱ 研修員 北原 洋

《研究の概要》

本研究は、中学校学級活動において学校生活におけるルールやマナーの意義について考える話し合い活動を行い、規範意識を高めることを目指した実践研究である。まず、学級活動委員会の活動の中で、班長の活動意欲や規範意識、話し合いを進行する力を高めた。次に、高めた資質を生かして、学級活動において付箋紙を活用した話し合いを班単位で行った。

キーワード 【規範意識 学級活動 話し合い活動 学級活動委員会 中学校】

I 主題設定の理由

法律や道徳、慣習などの行為の判断基準を規範と呼ぶ。この規範に基づいて判断したり行動したりする意識が規範意識である。現在、児童生徒の規範意識の低下が問題となっている。

改正された学校教育法では義務教育の目標の一つに規範意識を育むことが示された。文科省では『規範意識をはぐくむ生徒指導体制』の中で、「公共の精神や社会規範との関連において自己実現を図れるよう」にするためにも、まず「学校生活を営む上で必要な規範意識を育成する」ことの大切さを説いている。本県でも少年犯罪やいじめ・不登校の増加を受け、生徒指導の充実策の一つとして、『学校教育の指針』の中に、「学級づくりを通して規範意識を育成」することが示されている。

生徒の規範意識の様子を見てみると、ルールやマナーについて、一定の知識はあるが、行為の判断基準になっていないと感じる。「分かっているけれど行動できない」のである。先行研究からは、万引きや喫煙などの法的に処罰の対象となる行為に比べて、身だしなみや言葉づかいなど、生活習慣に関する規範意識は低く、自分の損得で行動する利己的な一面が見られる。また、友達と遊技場へ出入りするなど身近な仲間との行為は規範を逸脱しても大切にすが、学校や学級内の人間関係は希薄で、自分は自分、他人は他人としてとらえる面があり、学校や学級への所属感が低い傾向がある。

このような生徒に、所属する学級内の人間関係を深める手だてを投入し、他者を認め、他者の思いや願いを思いやれる資質を高めたい。他者の思

いに気付いた生徒は、自分の損得だけでなく、他者に迷惑をかけないことを判断材料の一つとして、規範意識を高めることができると思う。

規範意識が育つには、身の回りにあるルールやマナーを知り、その意義を理解し、実践することを通して内面化を図ることが大切だと言われる。

そこで、学校生活の基本単位である学級において、生徒の所属感を高めながら、生活習慣に関する規範の意義について話し合うことが、生徒の規範意識を高めるためには必要だと考えた。

今回、実践の対象とした協力校の学級の生徒は、明るく活動的である。学校行事では学級のまとまりも良く協力性が発揮されるが、日常の活動、例えば、給食の準備や清掃などの当番活動などでは協力性が十分とは言えず、非常に時間がかかる。ある生徒によれば「全体的にけじめのない雰囲気、授業中などもうるさいことがある」という。

学級活動委員会を活用して、学校生活におけるルールやマナーを大切にするという視点から、生徒を主体とした話し合い活動を展開していくことで、生徒に日常生活を見つめ直させ、規範意識を高めることができると考え、本主題を設定した。

II 研究のねらい

学級活動委員会を通して活動意欲や規範意識、話し合いを進行する力を高めた班長を中心に、学級活動において、ルールやマナーの意義について、付箋紙を活用した班単位の話し合いを展開することによって、生徒の規範意識が高まることを、実践を通して明らかにする。

Ⅲ 研究の見通し

- 1 学級活動委員会で、アンケートや班編制を考えたり、話し合いの練習を繰り返したりするなど工夫することによって、班長として、規範意識を高めることを目指した話し合い活動を進行することができるであろう。
- 2 学校生活におけるルールやマナーの意義について話し合う学級活動において、学級活動委員を中心に付箋紙を活用した班単位の話し合い活動を行うことは、生徒の規範意識を高めるのに有効であろう。

Ⅳ 研究の内容

1 規範意識を高めるとは

中学生にとって、身の回りにある規範として意識されるものには、校則がある。しかし、生徒の心得などとして、生徒手帳に記載されているものの、生徒自身には強く意識されていない。また、各学校では生徒の心得とは別に、生徒指導部などで生活指導の内規を作り指導の徹底を図っている学校もある。こうした中で、生徒にとって守るべき規範が不明瞭になり、教師から注意・指導される内容と意識され、自分たちで何を守るべきなのかという行動の判断基準として育っていない現状があるように見られる。

そこで、本研究では、生徒にとって身近にある学校生活の規範をルールやマナーとして意識し、さらに、自分たちに必要なものは何かを考えることで、生徒の判断基準としての規範意識を高めることができると考えた。

2 学級活動委員会の活動

(1) 学級活動委員会の組織

学級活動委員会は、学級の生徒の代表で組織され、年間指導計画に基づいて自発的・自治的な活動を計画運営する。

今回の実践研究にあたり、以下の点に留意して学級活動委員会を組織した。

- 学級委員を含め既存の組織を基にして6名で組織する。
- 学級活動委員は学級及び学年のリーダーとしての意識付けを行う。
- 学級活動では全体の司会進行と、班単位の話

合いの班長の役割をする。

今回は学級活動委員は学級委員4名生徒会本部役員2名の計6名（男女各3名）で組織した。

(2) 学級活動委員会で高めたい資質

① 委員の活動意欲

理想とする学級の姿の明確化や話し合い活動のテーマの決定、学級活動のための班編制などに主体的に取り組むことで、学級活動委員にリーダーとしての自覚を促し学級活動への意欲を高める。

② 委員の規範意識

話し合い活動の練習やアンケートの作成のための話し合いを通して、学校生活におけるルールやマナーについての考えやルールやマナーを守ることの意義を交流し、学級活動委員の規範意識を高める。

③ 話し合いを進行する力

話し合い活動の練習を繰り返し、班長と班員の両方の立場を体験することで、言葉かけの仕方や話題の整理の仕方などを身に付け、話し合いを進行する力を高める。

(3) 「話し合いの心得カード」

生徒同士が行う班単位の話し合いの様子を観察していると、進行役の班長が班員の考えを引き出せないことが多い。特に話すことが苦手な生徒には、自分の考えを受け入れてもらえるという安心感を与えることが必要である。そこでカウンセリングの基本的技法の中から、生徒にも取り組みやすそうな三項目をカードにまとめ「話し合いの心得カード」を作成した。「話し合いの心得カード」には、話を聞くときの気持ち、話法、態度の三つの観点で一つの項目を作った。(資料1)

資料1 「話し合いの心得カード」

話し合いの心得

① 興味をもって聞く。

基本は「あいづちをうつ」

- ・相手を見て！

② 否定しないで聞く。

気になったところは「相手の言葉を繰り返す」

- ・朗らかに！

③ 理解しようとする。

分からないところは「質問する」

- ・班員の反応を確認して！

「話し合いの心得カード」を委員に示すことで、班長として話し合い活動の中で意見を引き出し、本音と本音の意見交流が行えると考えた。

また、教師が意識的に見本を示すことで、学級活動委員会で行われる話し合いが、授業での話し

活動のモデルになると考えた。

3 話し合い活動の工夫

(1) 2時間構成の学級活動

生徒の規範意識を高めるために、学校生活におけるルールやマナーについて班単位で話し合いを行う。その際、生徒が自分たちの日常生活を振り返ることで学校生活の中にさまざまなルールやマナーがあることに気づき、その気づきの中から話題を焦点化して話し合いを深められると考え、2時間構成の学級活動とした。

(2) 付箋紙を活用した話し合い

学級活動では付箋紙を活用した班単位の話し合いを中心的な活動として位置付ける。これは付箋紙に書いた自分の意見を、台紙に貼りながら話し合うKJ法を応用した話し合いである。

班員の考えの違いが台紙上の付箋紙の位置の違いとして視覚的に示されることで、互いの意見に興味をもちやすく、話し合いを焦点化しやすい利点がある。付箋紙を使うことで貼り直しが利くため、話し合いの中で意見が変わったときに、自由に移動させることができる。話し合いの流れや成果が確認できるため、話し合いが苦手な生徒も参加しやすくなると考えた。(写真1)



写真1 付箋紙を活用した話し合いの様子

学級活動1の台紙は、「重要かどうか(重要度)」と「守れているかどうか(守れている度)」の二つの尺度からなる座標軸形式とした。学校生活におけるルールやマナーに対する互いの意識のずれを明確化することで、生徒が自分の規範意識を見直すきっかけになると考えた。(図1)

学級活動2の台紙は、「自分」「相手」「集団」の三つの領域で区切った表形式とした。ルールやマナーの意義を三つの領域に分類することで、そ

れが与える効果や影響を自分と周りにいる友達、さらにその周りにいる集団にまで広げて考えることができると思った。(図2)

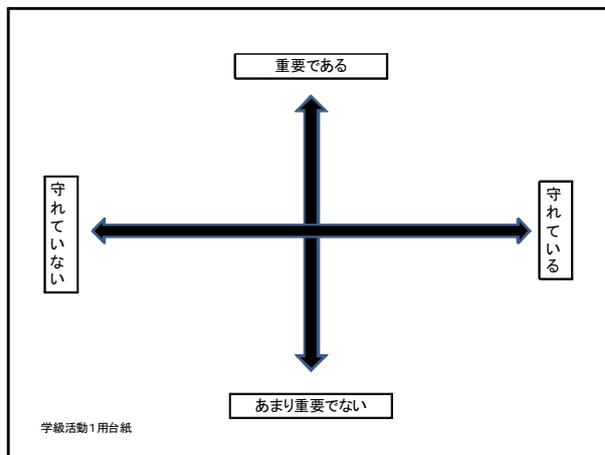


図1 座標軸形式の台紙

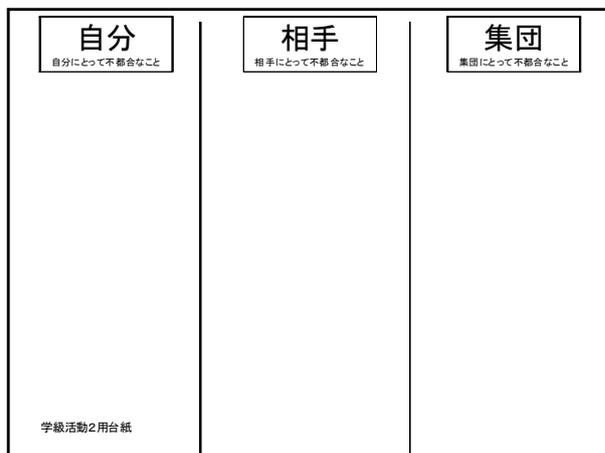


図2 表形式の台紙

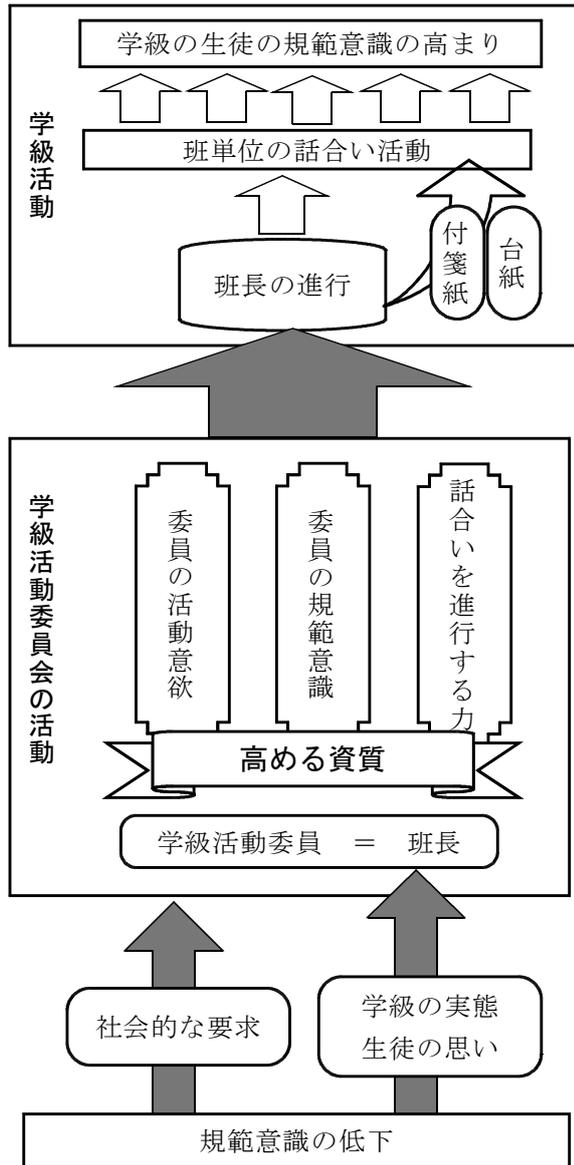
(3) 導入の活動

授業の冒頭にゲーム的な要素のある導入の活動を短時間で実施する。導入の活動を取り入れることで、班員同士の人間関係を和らげ話し合いやすい雰囲気を作るだけでなく、話し合い活動で必要となる要素を練習する場面として活用できると考えた。

学級活動1では「連想ゲーム」を行う。一つの題から連想する言葉を班員が次々に述べていく活動である。意見をたくさん考え、発言する練習になると考えた。

学級活動2では「足し算トーク」を行う。じゃんけんをしたときの指の数の総和から話題を決め、班員が順番に短い話をしていく活動である。相手の意見をしっかりと聞き合う練習になると考えた。

5 研究の全体構想図



V 研究の展開

1 指導計画の作成

本研究では、学級活動において2時間の授業実践を計画した。学級活動を実施するための、学級活動委員会への事前指導は、授業実践日の1週間前から放課後に行った。(表1)

表1 学級活動委員会への事前指導

月日	活動内容
11月 10日(月)	○第1回学級活動委員会 理想とする学級の姿と課題の共有 学級活動1の話合いのテーマの決定 話し合い活動の練習
11日(火)	○第2回学級活動委員会 生徒用実態把握アンケートの作成
12日(水)	○第3回学級活動委員会 アンケートの分析・資料作成 班編制
13日(木)	○第4回学級活動委員会 学級活動1のリハーサル 話し合い活動の練習
18日(火)	○授業実践 学級活動1 「日常生活を振り返り、学校生活のルールやマナーについて考えよう」 ○第5回学級活動委員会 学級活動1の振り返り 学級活動2の話合いのテーマの決定 話し合い活動の練習
19日(水)	○第6回学級活動委員会 学級活動2のリハーサル 話し合い活動の練習 資料作成
20日(木)	○授業実践 学級活動2 「最上級生としての自覚をもとう～服装を整えることの意義について考える～」
21日(金)	○第7回学級活動委員会 学級活動2の振り返り

2 実践と考察

(1) 第1回～第4回学級活動委員会

ねらい：学級活動1に向け学級活動委員の活動に対する意欲と規範意識を高め、班単位の話合いを進行する力を身に付ける。

① 学級活動委員のリーダーとしての自覚を促し、学級活動への意欲を高める。

委員の活動内容	教師の運営の留意点	委員の様子
理想とする学級の姿や現在の学級の課題と、規範意識を高めることとの関連を考え、学級活動での話し合いのテーマを決定した。 また、学級の生徒が積	委員の学級への思いを共感的に受け止めたり、質問をして考えを引き出したりして、活発に発言ができる雰囲気を作ると共に、委員同士の考えが共有されるように配慮した。	委員は協力性、人間関係、けじめなどをキーワードとして理想とする学級の姿を語り、「人に迷惑をかけないように、けじめを付けること」が課題だと確認し合った。教師が提案した「ルールやマナーを守ろうとする気持ちを高めること」を受けて、「けじめを付けられる学級にするために、日頃の学校生活を見直し、ルールやマナーを守る

<p>極的に話し合いに参加できるように、班編制を行った。</p>	<p>教師は学校生活から生徒の課題を予想し、学級活動の原案を作成した。</p> <p>班編制では、学校生活の様子と、実態把握アンケート結果を考慮して意見交換するように促した。</p>	<p>うとする意識を高めること」を話し合い活動のテーマとして決定した。</p> <p>班編制については、アンケートの結果から、話し合いの中心になりそうな生徒や学校生活のルールやマナーについて関心の高くない生徒が偏らないように配慮しつつ、学校生活の様子から話し合いをしやすい人間関係について、委員同士で積極的に意見交換をしながら編成した。</p>
----------------------------------	---	--

考察

学級活動委員は、理想とする学級の姿や学級の課題について、互いの考えを聞き合うことで、共感的な一体感が生まれ積極的な意見交換が行われるようになった。委員Aは、第1回学級活動委員会で次のような感想を記している。

学級活動委員会で話し合いをして、自分の理想とするクラスの姿がはっきりした。今日の話し合いのように、自分たちでクラスのみんなをまとめて、しっかりと学級活動の授業にしたい。

教師が話し合いの中で委員同士の考えを引き出したことで、「自分の理想とするクラスの姿」が他の委員とも共通の目標であることが明確になり、委員相互のまとまりを感じ、学級活動に向けて意欲をもったことが分かる。

また、委員Bは班編制を行った第3回学級活動委員会で次のような感想を記している。

班編制は今までで一番頭を使った。班員同士の相性やテーマへの関心の度合いなどを考えながらの編成は思った以上に大変だった。これからはリーダーとして頑張りたい。

委員が主体的に意見交換しながら自分たちの力で班編制を行ったことで、班長として自覚をもって話し合いに望むもうとする委員Bの意欲が「これからはリーダーとして頑張りたい」という一文に反映されている。

このように教師が共感的に意見交換ができるように働きかけると共に、委員同士が主体的な活動を行うことで、班長として話し合い活動を成功させようとする意欲を引き出すことができると考える。

② 学校生活におけるルールやマナーについての考えを交流させ、学級活動委員の規範意識を高める。

委員の活動内容	教師の運営の留意点	委員の様子
<p>話し合い活動の練習を行い、話し合いの手順を学ぶと共に、委員相互の学校生活のルールやマナーに対する考えを交流した。</p> <p>また、学級の生徒向けのルールやマナーに関する実態調査アンケートの設問を作成した。</p>	<p>話し合い活動の練習では教師が進行を務め、委員同士の話し合いの中から、学校生活のルールやマナーの大切さを引き出すようにする。</p> <p>設問に対する回答を予想しながら必要な設問を考えるように促し、授業の中で学級の生徒に投げかけたいことがらを明確にする。</p>	<p>話し合いの練習を通して、委員同士の規範意識に差があること、相手に迷惑をかける行為については重視しているが、服装や髪型といった、直接「相手」にかかわらない行為についてのルールやマナーは重視していない傾向があることに気付いた。</p> <p>設問については、積極的に意見交換を行い、以下の五つに絞り込んだ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日頃から意識しているルールやマナー ・ルールやマナーを大切だと思うか ・ルールやマナーを守れていると思うか ・ルールやマナーを守れない理由 ・作りたい・変更したいルールやマナー

考察

話し合いの練習では「服装を整えること」の重要性について意見が分かれた。「服装は個人の自由にゆだねられる部分が多い」ので「服装についての細かいきまりは必要ないのではないか」という考えに対し、「社会に出れば、服装で人間性を判断されることを考えれば、服装を整えることは重要だ」という意見が出されると賛同していた。この話し合いを通して、委員は学校生活におけるルールやマナーには大切な意味があるはずだという考えをもち、学級活動委員会の中で、学校生活におけるルールやマナーについて曖昧なことや疑問に思うことを話題として話し合うようになった。このことから学級活動委員の規範意識が高まっていることが分かる。

アンケートの設問を検討した第2回学級活動委員会で委員Cが以下のように感想を記している。

ルールやマナーのアンケートは思っていたより簡単にできた。前回の話し合いがなければ、みんなこんなにスラスラ考えられなかったと思う。アンケートを作ってみてルールやマナーについて、自分の中で意識が高まってきたし、自分の考えが深まってきた。

アンケートの作成を通して「自分の中で意識が高まってきたし、自分の考えが深まってきた」と書いている。「前回の話し合い」とは話し合い活動の練習を行った第1回学級活動委員会を指しているが、委員C以外の委員も活発に意見交換できた様子が分かる。意欲的な意見交換が学級活動委員会での話し合いを深まりのあるものにし、委員それぞれの規範意識に良い影響を与えていると考えられる。

③ 話し合い活動の練習を繰り返し、話し合いを進行する力を高める

委員の活動内容	教師の運営の留意点	委員の様子
<p>学級活動1のリハーサルで、司会、班長、班員などの役割を立て、本番を想定した話し合い活動の練習を行った。</p> <p>班長役の委員を交代しながら、複数回の練習を行った。</p>	<p>司会用に学級活動の進行台本を用意した。</p> <p>また「話し合いの心得カード」を提示し、班員の意見を引き出せるようにすると共に、班員の作業の確認や質問の受け答えができるように意識付けを行った。</p>	<p>班長役の委員は、的確な作業の指示を出せずにいたが、司会の説明した作業手順や留意点が、班長が指示することでもあったと気付いた。</p> <p>話し合い自体は第1回学級活動委員会で行った話し合い活動の練習の経験が生き、スムーズに行われた。班員役からは班長の説明が不十分なところに確認の質問がされた。班長は、理由を問う言葉かけを行い、意見を引き出しながら話し合いを進行した。</p>
<p>考察</p> <p>委員同士で話し合いの練習をすることで、始めは不安そうだった委員も自信をもって進行ができるようになった。「話し合いの心得カード」の三つの心得を基に、あいづちや繰り返しを意識して取り入れて話し合いを行っていた。特に話し合いで意見をまとめていく過程では、理由を問う言葉かけを有効に使うことで話し合いを進めることができた。学級活動委員のそれぞれが班長としてうまく進行していく手応えを感じている様子で、自信につながったと考える。</p>		

(2) 学級活動1 「日常生活を振り返り、学校生活におけるルールやマナーについて考えよう」

① 実践の概要

学級活動委員会での話し合いを基に、はじめのある学級にするために、日常生活を振り返り、学校生活におけるルールやマナーについて班単位で話し合いを行った。

導入の活動として「連想ゲーム」を行った後、実態把握アンケートの結果(表2～表4)を委員が説明した。

表2 実態把握アンケート結果1

質問項目	強く思う	思う	少し思う	思わない
ルールやマナーは大切だと思いますか	4	25	4	0
ルールやマナーを守れていると思いますか	3	17	13	0

注: 回答33人

表3 実態把握のアンケート結果2(ルールやマナーについて日頃から意識していることは何ですか)

回答内容	人数
服装や身だしなみ	17
時間を守って生活する(含む「遅刻」)	8
ヘルメットの着用	6
あいさつをする(含む「言葉づかい」)	5
不要な物を持ってこない	4
その他	5
無回答(含む「特になし」)	6

注: 回答33人・複数回答有

表4 実態把握のアンケート結果3(ルールやマナーをなぜ守れないのですか)

回答内容	人数
ルールやマナーを意識していないから	11
周りに流されて	5
守るのが面倒くさいから	4
未記入(含む「分からない」)	10

注: 回答30人

学級の生徒の多くはルールやマナーを大切だと思っているが十分には守れていないこと、守れない理由としては、特に理由があるわけではなくただなんとなく守れない人が多く、周りの守っていない人に同調してしまう人も多いことを話した。また、意識しているルールやマナーとしては、服装や自転車通学のヘルメット、時間を守ること、あいさつ、持ち物などの回答が多かったことを話した。

班単位の話し合いでは、付箋紙と縦軸に「重要度」を横軸に「守れている度」を記した座標軸形式の台紙を使って、学校生活のルールやマナーについて守れているルールと守れていないルールの違いを、生徒にとっての重要性の視点で話し合った。話し合いのまとめとして各班で話し合われた内容を学級に向けて発表し合った。生徒の規範意識を明確にして、自分たちが守った方がよいルールやマナーを考え、終末では、「クラス全体で守った方がよいルールやマナー」を生徒一人一人が考えワークシートにまとめた。

② 話し合いの中での学級活動委員の動きと考察

学級活動委員は班単位の話し合いの中で班長とし

て班単位の話合いの進行を行った。班員の規範意識を高めるため、学級活動委員会の話合いに基づいて以下の点を留意しながら行った。(写真2)

- 一人一人のルールやマナーに対する考えを意見としてを引き出すようにする。
- ルールやマナーの重要性について、なぜそう考えるのか理由を明確にするように努める。
- 実際の学校生活の場面に具体化して考える。



写真2 学級活動1の話合いの様子

以下に実際の話合いの一部分を示す。

班長：D君は体育着をきちんと着ることは重要だという意見だけけど、E君はあまり重要ではないと考えていますね。D君、なぜ重要だと考えているのか、理由を教えてください。

D：改めて理由と言われると答えにくいけれど、きまりは守るべきだと思う。

班長：例えば体育着のファスナーが全開になっても、勉強には関係ないし、誰かに迷惑をかけているわけでもないと思うのだけど。

D：マナーの問題ではないでしょうか。周りで見ている人がだらしないと感じるのは良くないと思うんだ。

(Eが図3のように付箋を貼り替える)

班長：あれ、E君。次に意見を聞こうと思ったのに何で貼り替えるの？

E：D君の話聞いて考えが変わった。でも、だらしないという点ではファスナーのことだけではないから、「守れていない」と思う。

重要性のとらえ方は人それぞれであり、Eは服装などは自分自身の問題としてとらえる傾向が強かった。しかし、班長がDの考えている理由を引

き出したときに「周りで見ている人がだらしないと感じるのは良くない」という意見によって考えが変わっている。しかし、Dと同じ位置ではなく、守れているか、守れていないかという視点で考えると、ファスナー以外にもだらしない着方をしている生徒がいることに気付き、やや「守れていない」場所に付箋紙を貼り直している。

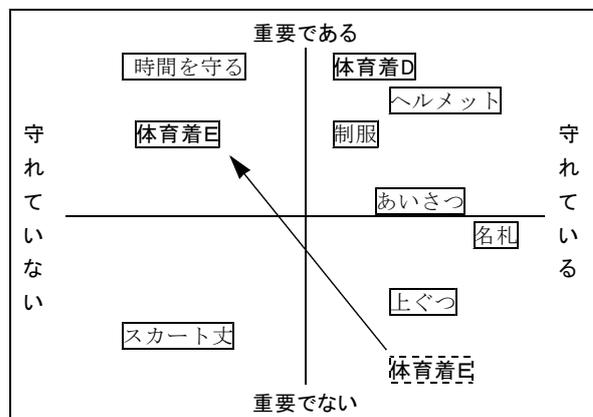


図3: 話合いでの付箋紙の変化

話合いの最後に、班長が発表した話合いの様子は以下のものであった。

- 重要だけど守れていないルールがたくさんあると気付いた。中でもヘルメットについては面倒くさいので、ついついかぶらないことが多いという人が多かった。
- 班で出されたルールやマナーの中に重要でないものは少なかった。みんなルールやマナーは重要だと考えている。ただ、持ち物や髪型のきまりについては人に迷惑をかけるわけではなく個人の自由だと思うので、あまり重要ではないのではないかと意見が出た。
- 制服の着方についてが話合いの中心になった。中学生らしい服装をするべきだし、きちんと着ると身が引き締まるから重要だと考える人と、勉強に直接関係のないことだから重要ではないと考える人に分かれて、結局決着はつかなかった。
- 服装(身だしなみ)について、重要だと考える人は少なかった。守れている部分と守れない部分が混ざっているという意見が出た。シャツ出しや腰パンをしている人は少ないけれど、ファスナーやボタンをしていない人や、スカート丈を短くする人は多いのではないかと。
- 班で出されたルールやマナーはだいたい守れているのではないかと考え多かったが、ルールの重要性のとらえ方はバラバラだった。例えば体育着の着方而言えば、周りに与える印象が悪いから重要だと考える人もいれば、誰かに迷惑をかけていないから重要ではないと考える人もいた。
- 服装(身だしなみ)についての話が中心になった。あまり守れていないが重要だという考えが多かった。特に体育着は登下校のときに学校の見栄えが悪くなるので正しく着たほうが良いという考えが多かった。ただ、制服を学校へ置いて帰ることは別に構わないのではないかと意見もあった。

学校生活におけるルールやマナーとして、生徒が付箋紙に書き出した内容は、服装や頭髪など身だしなみを整えることや、ヘルメットの着用など日頃から生活指導で注意されていることが大半を占めた。

生徒の感想には「一人一人そのルールが重要だと考えていたり、重要ではないと考えていたりして、いろいろな意見があることが分かった」として、互いの意見の違いを意識していることが分かる。また「身の回りに大切なルールやマナーがたくさんあったのに、守れていないことに気付い

た。」として、学校生活におけるルールやマナーを意識したという生徒もいた。

学級活動1では、班長の発表にもあるように、学校生活の中のさまざまなルールやマナーについて話し合うことで、生徒が各自の規範意識に目を向け、考えるきっかけを与えることができたと言える。その際、班長が中心となり、重要だと考える理由を問うたり、具体的な場面を設定して考えたりすることが、生徒の規範意識を高めるのに有効であったと考える。

(3) 第5回～第6回学級活動委員会

ねらい：学級活動2に向け、学級活動委員の学習に対する意欲と規範意識を高め、規範意識と班単位の話合いを進行する力を身に付ける。

① 話合いのテーマの検討を通して、活動に対する意欲を高める。

委員の活動内容	教師の運営の留意点	委員の様子												
学級活動1のワークシート「学級全体で守っていききたいルールやマナー」の集計を行い、学級活動2の話合いのテーマを決定した。	ワークシートの集計結果と学級活動1の班単位の話合いの様子を委員に確認しながら、テーマを決定する。	<p>学級全体で守っていききたいルールやマナーの集計は以下のようであった。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>回答内容</th> <th>人数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>服装・身だしなみを整える</td> <td>21</td> </tr> <tr> <td>ヘルメットを着用する</td> <td>8</td> </tr> <tr> <td>時間を守る</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>言葉づかいを正す</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>3</td> </tr> </tbody> </table> <p>回答34人・複数回答有</p> <p>班単位の話合いでも服装が話題に上がった班が多かったので「服装を整えることの意義」を話合いのテーマとして決定した。</p>	回答内容	人数	服装・身だしなみを整える	21	ヘルメットを着用する	8	時間を守る	4	言葉づかいを正す	3	その他	3
回答内容	人数													
服装・身だしなみを整える	21													
ヘルメットを着用する	8													
時間を守る	4													
言葉づかいを正す	3													
その他	3													
<p>考察</p> <p>委員の判断に委ねて話合いのテーマを決定したことで、自分たちの活動としての意識が高まった。制服や体育着の着用に関して、他校の様子などをふまえて、自分の知っている知識を委員同士で交換したり、教師に質問したりする様子からも、活動に対する意欲が高まっていることが伺える。</p>														

② 服装や身だしなみに対する考えを交流し、学級活動委員の規範意識を高める。

委員の活動内容	教師の運営の留意点	委員の様子
話合い活動の練習を行い、話合いの手順を学ぶと共に、委員相互の服装や身だしなみに対する考えを交流した。	「自分」「相手」「集団」の分類が煩雑になるので、進行の中で教師が確認しながら整理した。	服装を整える意義について、服装を整えないと不都合なことを三つの視点に分けて考えることが難しかったが、徐々に慣れて、自分たちで分類して進められるようになった。「自分」「相手」「集団」という三つの視点全てに「不都合なこと」を考えることができた。
<p>考察</p> <p>学習活動1の班単位の話合いでも、服装や頭髪、身だしなみなどは自分が不利になるだけで他人には影響を与えないという意見があったが、三つの視点で整理したことで、どのような意見があるか確認ができた。特に、集団にとって不都合なこととして「練習試合が組めない」や「学級対抗戦で不利になる」などの意見の根底に「周囲の評価は特定の個人が含まれる集団全体に影響を及ぼす」という考えがあることが見られた。</p>		

③ 話し合い活動の練習を繰り返し、話し合いを進行する力を高める

委員の活動内容	教師の運営の留意点	委員の様子
学級活動2のリハーサルとして、司会、班長、班員の役割を立て、話し合い活動の練習を本番を想定して行った。班長役の委員を交代しながら、複数回の練習を行った。	付箋紙に書き出す内容を「守らないと不都合なこと」という視点で統一することで、班長が意見を整理しやすくした。また「不都合なこと」の内容だけでなく、その理由を明確にすることで重要性を比較するように示唆した。	学習活動1での経験を経て、話し合いの進行自体は自信をもって行えるようになった。「不都合なこと」の分類では、「誰にとって不都合か」を問うことで、委員同士の意見交換が行えるようになった。 また、「不都合なこと」の理由を確認することで類似の意見をまとめて整理したり、「不都合なこと」の重要性の比較を行ったりできるようになった。
考察 学級活動1に比べると、準備の時間が短いため、班単位の話し合いに自信をもてない委員もいたが、慣れてくると表形式の台紙に分類することが早くなった。また、学級活動2でも話し合いの最後に班からの提案を発表するので、文章のまとめ方について基本のパターンを示したことで、話し合いの出口をイメージして望むことができたと思う。		

(3) 学級活動2 「最上級生としての自覚をもとう ～服装を整えることの意義について考える～」

① 実践の概要

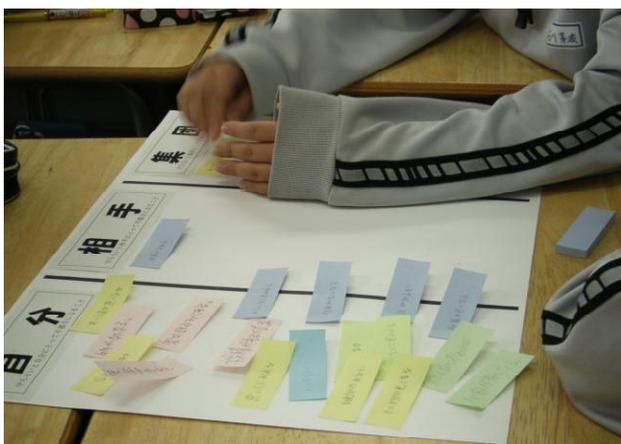


写真3 学級活動2の話し合いの様子

導入の活動では「足し算トーク」を行った。その後、前回の授業の話し合いで各班から発表された意見を確認し、ワークシートに書かれた学級全体で守った方がよいルールやマナーの集計結果を委員が説明した。

班単位の話し合いでは付箋紙と表形式の台紙を使って話し合い、服装を整えないと起こる不都合なこと(困ること)を、それが「自分」、身近な「相手」、自分の所属する「集団」のどこに影響を与えるかを考えた。その後、来年最上級生となるにあたって重要だと考える内容を話し合い、班から提案として発表した。(写真3)

終末では、社会人としてまた親としての視点から規範意識を一般化するために、事前に依頼しておいたルールやマナーについての保護者からの手

紙を生徒に紹介し、授業での話し合いもふまえて「わたしの心がけたいこと」をまとめた。

② 話し合いの中での学級活動委員の動きと考察

学級活動1同様に学級活動委員は班単位の話し合いの中で班長として班単位の話し合いの進行を行った。今回の活動では、制服や体育着の着方など服装を整えることの意義を考える場面で、生徒の考えを引き出し、話し合いを深めることが重要である。班長自身も前回よりも踏み込んだ発言が要求されると考え、以下の三点を留意することにした。

- 服装を整えないと起こる不都合なことについて、班員の考えを共感的にとらえて、意見を引き出すようにする。
- 班員が「不都合だ」とする意見について、その理由を明確にするように努める。
- 班員の意見の共通点や相違点を明確にししながら、「自分」「相手」「集団」への影響に分類して考える。

以下に実際の話し合いの一部分を示す。

- 班長：「自分」に関することを並べ替えよう。
 F：一番重要なのは「友達を失う」かな。
 G：私は「信用がなくなる」だと思う。
 H：「相手からの印象が悪くなる」も重要度が高くないですか。
 I：まともらないなあ
 班長：元を正すと原因はどこにあるのかな？
 F：「友達を失う」のは「信用がなくなる」からかな。
 G：「信用がなくなる」のは「相手からの印象が悪くなる」からかな。
 I：人は見かけも大事だってことだね。

H：「印象が悪くなる」と「成績(内申)も下がる」っていうよ。

班長：じゃあ「相手から印象が悪くなる」が自分に関することでは一番重要だという結論でいいですか。

G：「集団」に関することころの「学校の風紀が乱れる」というのも、「相手からの印象が悪くなる」からだと考えられるよ。

班長：では、全部の中で一番大切なのは「自分」のところの相手からの「印象が悪くなる」になるになるかな。

この班では「自分」に関する内容について、一番重要なものを考えるときに、班長の「元を正すと原因はどこにあるのか」という言葉かけによって、班の意見全体が図4のように整理されていた。学級活動委員会での事前の練習でも、内容につながりがあることが指摘されていたが、実際の場面でも生かされた。

(自分)	(相手)	(集団)
印象が悪くなる	不愉快な思い	風紀が乱れる
信用をなくす		評判が悪くなる
友達を失う	悪い真似をする	学校の信用
成績が下がる		
だらしなくなる		

図4 話し合いの後の整理された付箋紙

注：上にある意見が、より重要度が高い

各班の提案をまとめると以下ようになる。

- 服装一つで自分自身が相手に与える印象が悪くなると周囲の人の信用を失い、友達ができなくなるかもしれないので、意識して生活すべきだ。
- 服装のことだけでなく、将来的には全てのこと加減になると考えると、だらしのないのが平気になることが一番怖い。
- 修学旅行や体験入学など、校外に出る機会も多く、いろいろな人の目に付くことが多いので、変な格好をして学校の評価が落ちないようにしなければいけない。
- 何人かのせいで集団全体が悪く見られ、受験などにも影響が出ると困るので、もっと周囲の人のことを考えて行動すべきだ。

前回の話し合いで、服装については「個人の問題で誰にも迷惑をかけない」とか、「勉強とは無関係である」という意見が出されていたが、相手に不愉快な思いをさせたり、集団全体の評価に悪影響を与えることなどに気付いていることが分かる。また自分自身についても、服装が個人の信用を失わせたり、そのほかの行動にも影響を与えるという考えが出された。3年生を意識した意見と

しては受験に影響するというやや打算的な考えもあったが、他人の評価を意識できることも社会的には大切だと考える。

授業後の生徒へのアンケートの回答(表5)を見ると、自分の行動と周囲の人への影響に言及した生徒は3名であるが、大半の生徒はルールやマナーを「改めて大切だと思った」と書いている。その中の一人は、「前回の授業では服装や髪型など身だしなみは、人に迷惑をかけないことだという意見が多く出されていて、自分も始めは同じように考えていたけれど、今回の授業を振り返ると、将来の自分にも関することだと思いうし、一緒にいる人にも影響を与えるので大切なことだと思った」と感想を述べており、自分自身にとってだけでなく、周囲の人間や集団との関係性をとらえていることが分かる。

表5 自分の考えや気持ちで一番変わったところ

回答内容	人数
自分の行動が周りの人に影響を与えることがわかった	3
ルールやマナーは改めて大切だと思った	2 3
服装を整えようと思った	2
その他	3
特になし	2

「その他」及び「特になし」と答えた5人中4人はワークシートの「わたしの心がけたいこと」の項目に以下のように書いており、ルールやマナーの大切さについて理解をしていることが分かる。

- 親が自分たちのことを考えてくれていると思った。受験に合格できるように服装にも気を付けたい。
- ルールを守る大切さが分かった。生活面をよくしたい。
- 自分がルールやマナーを守れていない。これからはちゃんとルールを守る。
- ルールは守らないと意味がないし、すごく大切だということが分かった。ルールをきちんと守りたい。

Ⅶ 研究の成果とまとめ

◎ 学級活動委員会では、教師が時間をかけて委員の話聞く姿勢を示し、一人一人の発言を引き出したことで、安心して本音で話し合える場となり、「他人に迷惑をかけない、けじめのある学級にしたい」という各委員の思いが共有された。この思いを大切にしながら活動したことが、委員の活動意欲を高めるのに効果があった。活動意欲の高まった委員は、学級委員会の中

で、学校生活におけるルールやマナーの意義について真剣に話し合うようになり、実態把握のアンケートの作成や話し合い活動の練習を通して、委員としての規範意識を高めることができた。

そうした話し合い活動の練習を、班長と班員の両方の立場から繰り返すことが、生徒のもつルールやマナーについての考えを予想することにつながり、適切な言葉かけや話題の整理の仕方といった話し合いを進行する力を身に付けていった。

- ◎ 話し合い活動では、付箋紙と台紙を活用し、付箋紙を動かしながら話し合いをしたことで、話し合いの進行が視覚的になった。そのため、話題が焦点化しやすかったり、互いの意見の関係性が明確になったりして、班員それぞれの規範意識の交流が図られ、班単位の話合いで規範意識を高めることができた。

班長が中心となったことで、学校生活におけるルールやマナーについて自分たちの問題としてとらえ、本音と本音の交流を促す効果があった。ルールやマナーという「分っている」はずの話題を改めて話し合うことで、互いの感じ方や考え方の違いに気づき、また影響され、ルールやマナーの意義について一歩踏み込んだ考えをもつようになった。

導入の活動を工夫したことも、話し合いの雰囲気作りと共に、意見をたくさん出したり、相手の話をしっかり聞いたりなど、話し合いの練習にもなり、話し合いが深まるのに有効だった。

- ◎ 実践後の生徒の変化について、協力校の学級担任は以下のように述べており、少しずつ生徒の行動が変化している様子が伺える。

- 以前より体育着のファスナーや上履きの踏みつぶしについて意識している様子が見られる。
- ベランダに出るといった学校で禁止している行為が減った。
- 友達同士の言葉づかいなどはあまり改善されないが「相手に迷惑がかからないか」や「誰かの迷惑にならないか」という他者への思いやりの面が成長したように感じる。
- 注意したときの「～もやってるのに」、「何で私だけ」という生徒の言葉が減ってきている。

- ◎ 今回の実践では学級活動委員会で決定した「服装を整えることの意義」を通して、規範意識の高まりを引き出した。学校生活におけるルールやマナーとしては、このほかにも「時間を守ること」や「安全に気を付けること」、「人を傷つけないこと」などをテーマとすることが考えられる。今後これらのテーマについて、台紙の工夫をしたり、班長の数を増やし班を小集団にしたりと、話し合い活動を発展させて、生徒の規範意識を高めていきたい。

<参考文献>

- ・文部科学省 『規範意識をはぐくむ生徒指導体制』 ぎょうせい (2008)
- ・坂本 昇一 監修 『実践生徒指導3 自己指導能力を育てる』 ぎょうせい (1994)
- ・國分 康孝 大友 秀人 著 『授業に活かすカウンセリング』 誠信書房 (2001)
- ・加藤 十八 著 『ゼロトレランス』 学事出版 (2006)
- ・高橋 哲夫 著 『学級活動の指導過程』 明治出版 (1991)
- ・下村 哲夫 著 『新・生徒指導の法律学』 学研教育選書 (1993)